

むかしむかしの リコーダー



中世から現代まで、音楽とともに変化してきたリコーダー。
それが最も分かりやすいのは、外見のデザインです。
よく知られた凸凹の「あの」形は1700年ごろ。

より古いルネサンスや中世のデザインは
ストレートな直管で、逆に現代に近づくと
キーが足される……といった様子です。

でも楽器の性能としては、外見よりも、
くり抜かれた内側の管の形状＝「内径」
こそが重要なのです！

リコーダーの内側から見える歴史はどんな
ものか、様々なリコーダーを使った実演も交えながら、紐解いていきましょう。



古楽講座 vol.9 むかしの楽器～リコーダー編 笛は見かけじゃ分からない ～リコーダーの変遷を内径で追う～

2025年10月19日(日)11:00-12:30 円形ホール

講 師：	井上玲（リコーダー奏者）		
対象者：	どなたでもご参加いただけます ※小学校入学前のお子様の入場はできません。		
定 員：	100人 ※先着順。定員に達し次第受付終了	受講料：	1,000円
申込期間：	7月12日(土)10時～9月30日(火)15時	※先着順。定員に達し次第受付終了。	
申込方法：	ホームページのフォームより申込み	[https://www.kogaku.net/] → →	
問合せ：	新・福岡古楽音楽祭 事務局	✉ kogaku.fes@gmail.com 🌐 https://www.kogaku.net/	



◆講師プロフィール◆ 井上玲（リコーダー奏者）

東京大学を経て東京藝術大学大学院修士課程を学科首席で修了。

第32回国際古楽コンクール〈山梨〉第3位、第11回テレマン国際古楽コンクール第2位および聴衆賞、第34回青山音楽賞〈新人賞〉、令和6年度「大阪文化祭奨励賞」ほか受賞多数。